

①【単年度】長町・歩いて楽しい街並み形成に向けた道路空間の社会実験(仙台市)

1. 実験概要

- ・ 長町商店街エリアにおける歩いて楽しい街並みづくりの重要な要素となる道路空間再整備の検討のため、旧国道4号(市道河原町長町南線)の車道を4車線から2車線に規制し、交通状況の変化や道路空間利活用の可能性等を把握・検証する。

2. 実験内容、実験結果

①道路空間の再構成

- ⇒当該路線の社会実験中の車両交通量は平日約16千台/日、休日約14千台/日となり、通常時と比べて約1割ほど減少
- ⇒自転車の車道走行率は通常時と比較し平日16ポイント、休日33ポイント上昇
- ⇒社会実験中の通行者・来訪者のアンケートで歩行者と自転車の動線分離について、「歩行者の安全性が高まった」と回答した人が約5割

②滞在性向上・賑わい空間の設置

- ⇒歩行者交通量は通常時と比較し平日55%、休日80%増加
- ⇒通行者・来訪者のアンケートで賑わいを創出するイベントの実施について「賛成」と回答した人が約8割

車線規制の状況



朝の交通渋滞の状況



歩道にキッチンカーの出店



利活用空間にテーブルセットの設置



3. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」に基づき、歩行者と自転車を動線分離し、歩行者の安全性と自転車の走行性の向上を確認したが、商店街通りという点を考慮し、自転車利用者の商店街のお店への立ち寄りやすさも両立する工夫が必要である。
- ・ 街並みづくりを通じ商店街の活性化や地域活動の促進についても、官民連携で取り組んでおり、地域の祭りでの協力などで培った信頼関係を基に、官民がそれぞれの役割を果たしながら、ともに取り組みを進めることで、事業開始から約2年で社会実験の実施に至るといふスピード感のある展開になっている。

①【単年度】長町・歩いて楽しい街並み形成に向けた道路空間の社会実験(仙台市)

4. 意見と対応

有識者等からの意見	意見への対応
賑わいに期待する一方、渋滞等の懸念もある。今後の合意形成の仕方はどのように考えているか。	車両交通量の抑制策等を検討するとともに、ニューズレターの送付やシンポジウムの実施等により、地域に対しての情報発信や丁寧な説明を重ねることで、地道に合意形成を進めていきたい。
道路と民地が一体となった賑わい空間の使い方も考えてほしい。沿道の状況によって、利活用の仕方を分けて考えてみるのも良いのでは。	沿道事業者との連携を深めながら、民地も含めた利活用の仕方を検討していきたい。

5. 本格実施に向けた課題と対応方針

本格実施に向けた課題	課題への対応方針
<u>交通量・渋滞</u> 社会実験に伴う車線規制に当たり、事前周知として周辺の約7.8万世帯へチラシの配布・回覧や道路予告看板の設置等を実施したが、当該道路の車両交通量の減少はわずかに留まり、渋滞が発生した。	当該道路の交通量の抑制を検討するため、広報の一層の強化とともに、交通シミュレーション等により整備パターンの検討や周辺の道路環境の変化の影響検証等を行い、改善策を講じた社会実験を実施し最適な形を見極めていく。
<u>店舗の少なさ</u> 各エリアの満足度のアンケートで「不満」と回答した方の自由意見では、店舗の少なさ(沿道、社会実験時)への不満があった。	商店街と協力し、空き店舗活用実験の実施や出店しやすい環境を構築するとともに、道路再整備により、街並みの魅力の向上を図りたい。また、沿道事業者と連携し、様々な道路空間(路肩等)の活用方法を今後の社会実験等を通して検討していく。

6. 今後のスケジュール

- R7年度 交通シミュレーション、シンポジウムの実施、社会実験、基本計画の策定
- R8年度 社会実験、歩行者利便増進道路の指定、空き店舗活用実験